

後者階子江戸

後者階子

後者階子京

讓國四十六

特別
千13
3849
26





百七
 子 13
 3849
 26

26

後者後階子 藝



京之巻目錄

神妻乃礼智也

かき終もかい

藝史

徳園町

あもと奪

業のの類

うめり

えとれわ

性本

神鼻毛

京

物



縁よいとぐはりてう
 きののしり法身物の
 大入乃あり振舞よ
 仲漕と遊臺あひふ
 お生の射を焼く
 松を中おめ
 又万代の地れ
 又ゆり取
 とのふ
 舞わがら
 舞わがら
 ぶがた日

京一三長後没者目錄

後醍醐天皇御在位中没者

▲立波之部

○凡そ立波の具考たのど

上吉 今村七三郎

○凡そ立波の具考たのど

上吉 山風三又郎

け人の女中がうらうらんぶ

上吉 中村十郎

為るあまうてまの身と松

上吉 沢村三郎

難波うらうらんぶのりところ

上吉 松谷新十郎

既なきで世張とゆや

▲実考之部

上上吉 桐原信隆

うらうら場のあるたのど

上上士 坂東満彦
いさゝかおれまゝとらう小艇

▲歌波之部

上上士 松平友十郎
おひいんごうか梅下

上上士 嵐七又郎
あつてもお男のいさる梅

上上 山中平十郎
あひいんごうねあまらうけ

上上 中村社九郎
先男ありのいさる

上中村幸良 上友川巻重
上三井長良 上沢村友彦

▲道外之部

上上吉 長岡九郎
いさる方とあてせよと二方

上上 平長万助
あつてもお男のいさる

▲若女形之部

上上吉 中村彦代三
あつてもお男のいさる

上上吉 嵐和彦野
あつてもお男のいさる

上上士 沢川菊之郎
は月いさるのあつても

上上士 沢村園之郎
あつてもお男のいさる

上上士 山下六三郎
あつてもお男のいさる

上上 藤原邦之吉
あつてもお男のいさる

上中村信彦 上中村秀松

▲色子し分

上藤本龜三 上岡ひが清三

上大和山仙助 上尾尻三助

上藤松小仙 上小倉山三郎

一 下等之物は一係松を又良の者
一 瀬川集江の二

上上 波村備石

上上 津川若物

上上吉 中村右左衛門

為めしと千さくくゆつるま

今年も二三番真のまに申出の者
ご先代出が物に違ふる様も其の勢
改正の事今申出を候と定付候も若
流中の事と申出申出申出

東の事小判並品産中備銀物

大坂 立波 嵐者十席

立波 坂東寄席

立波 大谷廣八

立波 市川宗三席

立波 萩屋前座

立波 市川因茂

立波 望六人

立波 實魚 林山小江席

立波 坂東三席

立波 松三席

立波 八十二席

立波 山下新又席

宗三

鳥糞 鼠小六

日 林山長老神

日 伏見川長老

日 あまを三神

日 中村千彦

日 玉沢才次郎

日 伏見川長老

日 北中崗ひさ勝

日 辰園久兼

を介 畧々

在りて其後長生堂の例年の一日
舊暦の定小春の日に於て以後は
中春の日の意に於て亦る長生堂
也

○ 撥る後生堂の福大玉

福大玉は入る振とあるは十月乃

季備ふむと云ふ二十日化して元日

と成りて徳記の月令に於て是れも

神会に於て大なる遠月奉もつて其の

疾を立ぬれば掛念もあつておぼし

くは述べたりと云ふは此の御説に

依りて是れ御説のまゝに御説あり

さし置けりとの御説を以て御説の人

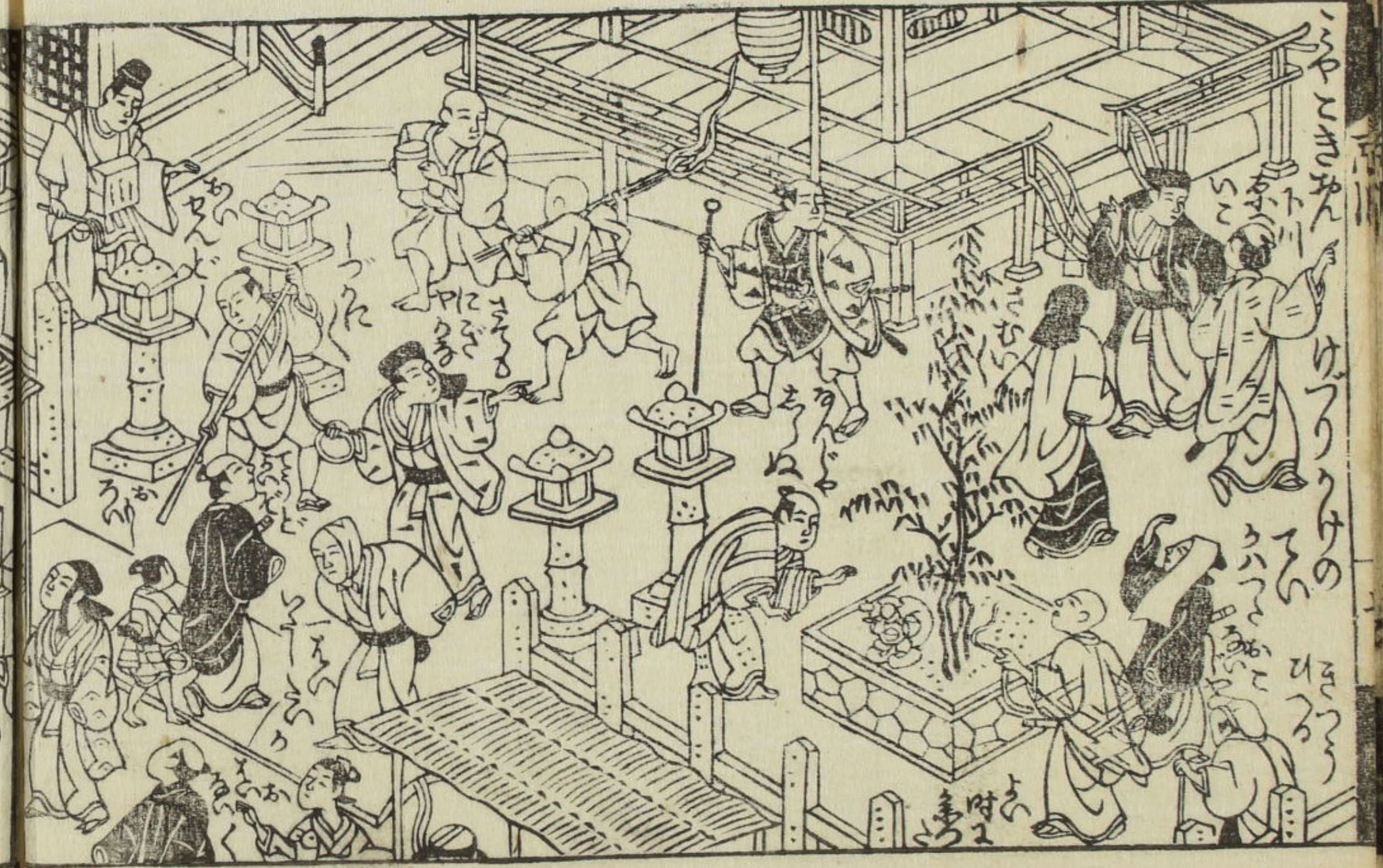
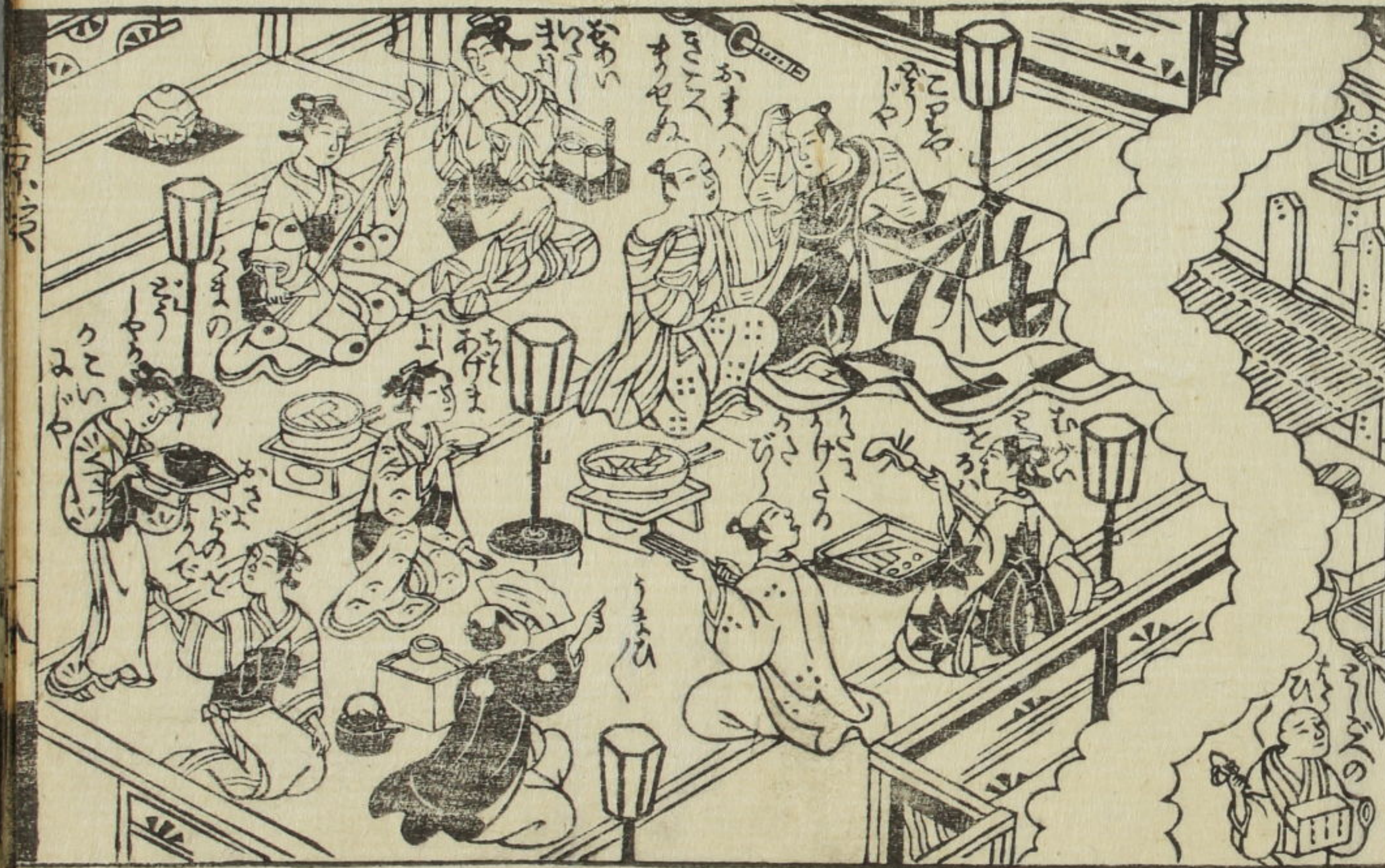
と云ふ御説の御説の御説ありて

見れば是れ御説の御説ありて

の御説ありて御説の御説ありて

と云ふ御説の御説の御説ありて

御説は御説の御説の御説ありて



出で居る様子の如く言ひつゝ梅屋の口を
 とりて今と云ふは未だ申す事なきなり
 といふ様子の如く申す事なきなりと
 申す事なきなりといふ様子の如く申
 す事なきなりといふ様子の如く申す
 事なきなりといふ様子の如く申す事
 なきなりといふ様子の如く申す事な
 きなりといふ様子の如く申す事なき
 なりといふ様子の如く申す事なきな
 りといふ様子の如く申す事なきなり
 といふ様子の如く申す事なきなり

は方々の寺とて居る所なる事あり
 とのれと云ふ法興の以て居る所あり
 と云ふ法興の以て居る所ありといふ
 事なきなりといふ様子の如く申す事
 なきなりといふ様子の如く申す事な
 きなりといふ様子の如く申す事なき
 なりといふ様子の如く申す事なきな
 りといふ様子の如く申す事なきなり
 といふ様子の如く申す事なきなり
 といふ様子の如く申す事なきなり
 といふ様子の如く申す事なきなり
 といふ様子の如く申す事なきなり
 といふ様子の如く申す事なきなり

たりて其の...
 能の能大坂...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...


寶曆十年
此考改
 白雲
 他者
 自笑
 〆の〆〆
 〆〆

用口

...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

上吉  今村七三郎

...
 ...


 豊後都賀月儀云
 二番後
 中村

まとうた様
 何じしニやえ

中村
 小川

少島七郎
 七人

ちどり
 ちどり

山中
 十平

中村
 中村

ひさ
 ひさ



中村
 中村

松本
 十平

中村
 十平

上士書 相傳儀方書

此書乃... 勸修善業... 奉... 志... 付... 家... 族... 後... 世... 之... 業... 也... 凡... 我... 家... 族... 之... 人... 皆... 宜... 遵... 此... 書... 之... 教... 令... 各... 盡... 心... 力... 以... 成... 此... 業... 也... 凡... 我... 家... 族... 之... 人... 皆... 宜... 遵... 此... 書... 之... 教... 令... 各... 盡... 心... 力... 以... 成... 此... 業... 也...

上士書 叔末滿後

此書乃... 叔末滿後... 凡... 我... 家... 族... 之... 人... 皆... 宜... 遵... 此... 書... 之... 教... 令... 各... 盡... 心... 力... 以... 成... 此... 業... 也... 凡... 我... 家... 族... 之... 人... 皆... 宜... 遵... 此... 書... 之... 教... 令... 各... 盡... 心... 力... 以... 成... 此... 業... 也...

叔後之部

上士書 叔中友十部

此書乃... 叔中友十部... 凡... 我... 家... 族... 之... 人... 皆... 宜... 遵... 此... 書... 之... 教... 令... 各... 盡... 心... 力... 以... 成... 此... 業... 也... 凡... 我... 家... 族... 之... 人... 皆... 宜... 遵... 此... 書... 之... 教... 令... 各... 盡... 心... 力... 以... 成... 此... 業... 也...

上士書 叔七八部

此書乃... 叔七八部... 凡... 我... 家... 族... 之... 人... 皆... 宜... 遵... 此... 書... 之... 教... 令... 各... 盡... 心... 力... 以... 成... 此... 業... 也... 凡... 我... 家... 族... 之... 人... 皆... 宜... 遵... 此... 書... 之... 教... 令... 各... 盡... 心... 力... 以... 成... 此... 業... 也...

自の心持の事なるを^{〔後〕}後法
中書に記す所は、昔年并村に於て
御事にて、御事會の大事業は、又
多の御事にて、御事會の御事なる

上上 ◎ 山中平十郎

〔書〕作名に、又平家宗、中書に
書す所は、御事會の御事なる
御事會の御事なる、御事會の御事なる
御事會の御事なる、御事會の御事なる

上上 ◎ 中村社九郎

〔書〕公之御事會の御事なる、御事會の御事なる
御事會の御事なる、御事會の御事なる
御事會の御事なる、御事會の御事なる
御事會の御事なる、御事會の御事なる

▲ 乃形之部

上上吉 ◎ 長岡九郎

〔書〕長岡九郎の御事なる、御事會の御事なる
御事會の御事なる、御事會の御事なる
御事會の御事なる、御事會の御事なる

上上 ◎ 平長万助

〔書〕平長万助の御事なる、御事會の御事なる
御事會の御事なる、御事會の御事なる
御事會の御事なる、御事會の御事なる

▲ 長村之部

上上吉 ◎ 中村社九郎

〔書〕中村社九郎の御事なる、御事會の御事なる
御事會の御事なる、御事會の御事なる
御事會の御事なる、御事會の御事なる

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is densely packed and covers most of the page. There are several small, rectangular boxes or markers interspersed within the lines of text, possibly indicating specific sections or key terms. The ink is dark and the paper shows signs of age.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is densely packed and covers most of the page. There are several small, rectangular boxes or markers interspersed within the lines of text, possibly indicating specific sections or key terms. The ink is dark and the paper shows signs of age.

上上



源氏行の吉

此の吉は源氏行の吉に
しりしに源氏行の吉に
しりしに源氏行の吉に
しりしに源氏行の吉に

△元元元年

上上



以村満吉

此の吉は源氏行の吉に
しりしに源氏行の吉に
しりしに源氏行の吉に
しりしに源氏行の吉に

上上



深川君卿

此の吉は源氏行の吉に
しりしに源氏行の吉に
しりしに源氏行の吉に
しりしに源氏行の吉に

極上言



中村吉宗

此の吉は源氏行の吉に
しりしに源氏行の吉に
しりしに源氏行の吉に
しりしに源氏行の吉に

此の吉は源氏行の吉に
しりしに源氏行の吉に
しりしに源氏行の吉に
しりしに源氏行の吉に

上上



以村満吉

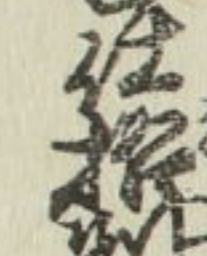
此の吉は源氏行の吉に
しりしに源氏行の吉に
しりしに源氏行の吉に
しりしに源氏行の吉に

此の吉は源氏行の吉に
しりしに源氏行の吉に
しりしに源氏行の吉に
しりしに源氏行の吉に

此の吉は源氏行の吉に
しりしに源氏行の吉に
しりしに源氏行の吉に
しりしに源氏行の吉に

此の吉は源氏行の吉に
しりしに源氏行の吉に
しりしに源氏行の吉に
しりしに源氏行の吉に

上上

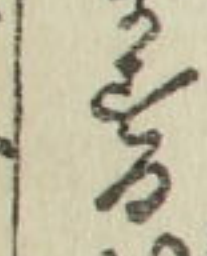


以村満吉

此の吉は源氏行の吉に
しりしに源氏行の吉に
しりしに源氏行の吉に
しりしに源氏行の吉に

此の吉は源氏行の吉に
しりしに源氏行の吉に
しりしに源氏行の吉に
しりしに源氏行の吉に

上上



以村満吉

二十石龍狀 中巻下巻
二の巻 田の巻
三の巻 桑の巻

各代 辰巳政吉
細工人 龜谷肥後

▲此後實數款後年条不元亮

上上吉 龜谷竹屋

上上吉 龜谷重八

上上吉 龜谷源三郎

上上吉 龜谷清吉

上上吉 龜谷物八

上上吉 龜谷喜松

上上吉 龜谷十吉

上上吉 龜谷満物

上上吉 龜谷虎彦

上上吉 龜谷龜松

上上吉 龜谷新吉

上上吉 龜谷友彦

上上吉 龜谷全吉

上上吉 龜谷小八

上上吉 龜谷乙吉

上上吉 龜谷宗三

▲子伏張乃分

上上吉 龜谷巳之介

上上吉 龜谷辰之助

上上吉 龜谷仍吉

上上吉 龜谷源次郎

上上吉 龜谷清三郎

上上吉 龜谷源三郎

▲乃女形之部

上上吉 嵐國市

上上吉 市川外山

上上音 十本金書
 上上音 岩井八十七
 上上音 清尾孫右良
 上上音 萩原梅助
 上上音 中村百重
 上上音 十本菊池
 上上音 中村久重
 以上

宝曆十年

辰正月音

東二条寺町角
 東二条以音町角
 東二条以音町角
 東二条以音町角
 東二条以音町角
 版 合

後者後踏子 藝不定

大坂巻目錄

度平此紋挑花小
 之之乃道好坊
 船之乃能見世
 日中一此夜乃物
 火輝と燈
 又海
 芳野荒田の
 中川盛り

産附のち燭の

田方わろれ

ねろぬ かりうや

ひり ねろぬ

ひり ねろぬ

ひり ねろぬ

ひり ねろぬ

ひり ねろぬ

ひり ねろぬ

ひり ねろぬ

三社乃由院堂

大坂二五番敷波者目録

長福永吉屋の飛中中山文七

長福永吉屋の飛中中山文七

▲立波之形

○見立南の形

本吉 長川平九郎

長川平九郎

上吉 橋山長三郎

橋山長三郎

長吉 中山文七

中山文七

上吉 山下又右衛門

山下又右衛門

上吉 市野川長三郎

市野川長三郎

上吉 市川長三郎

市川長三郎

市川長三郎

上上士 尾川八段 尾川

上上 今春ハ秋五九と 九段

上上 松山二十席 日九

上上 嵐若三席 日九

上上 中山東助 日九

上上 小川若志席 日九

上上 中山百次席 中山

上上 沢村辨八席 日九

上上 中山新九席 日九

上上 實徳之部 日九

上上 三津大次席 日九

上上 桐山彼流席 日九

上上 竹中若志席 日九

上上 坂東國又席 中山

上上 深川比世流席 日九

上上 山下次席 中山

上上 坂東若志席 中山

上上 三津若志席 日九

上上 三谷川若志席 日九

上上 正市山源若志席 日九

上上 正市山源若志席 日九

上中村交十帝出上着川着九帝出
上着六帝出上着川着九帝出

▲道外形之部

上吉 大雲而物（茶七）

上上 松平孫太郎（中出）

▲次車形之部

上上 飯田文十帝（中出）

上上 山科新又帝（中出）

▲表形之部

上吉 中村富十帝（中出）

上吉 芳澤崎之他（中出）

上上吉 三條浪江（中出）

上吉 若回保松（中出）

上吉 中村之守（中出）

上上 嵐小作（中出）

上上 山下金也（中出）

上上 山下守源（中出）

上上 桐原谷秀松（中出）

上上 嵐松之盛（中出）

上上 中村茂（中出）

上上 中村茂（中出）

上上

婦川みかど

上上

中村りしし

▲中山及子之分

一中山真之部

一婦川菊八

一山下小松

一市山高雲

一中山小石

▲嵐社及子之分

一岩田高雲

一源川松之部

一富山若雲

一和松

一萩野金市

一中村

上上

婦川朝正

上上

嵐久兼雲

▲巻軸

中村初太郎

千秋万歳

大坂廣二

▲立波

竹回子市

上上吉

竹回多吉

上上吉

竹回金吉

- 一 田代百箇石
- 一 田代千石
- 一 田代千石
- 一 田代千石
- 一 田代千石
- 一 田代千石
- 一 田代千石
- 一 田代千石
- 一 田代千石
- 一 田代千石
- 一 田代千石

以上

○ 田代町にありし中へ...

田代町にありし中へ... 田代町にありし中へ... 田代町にありし中へ...

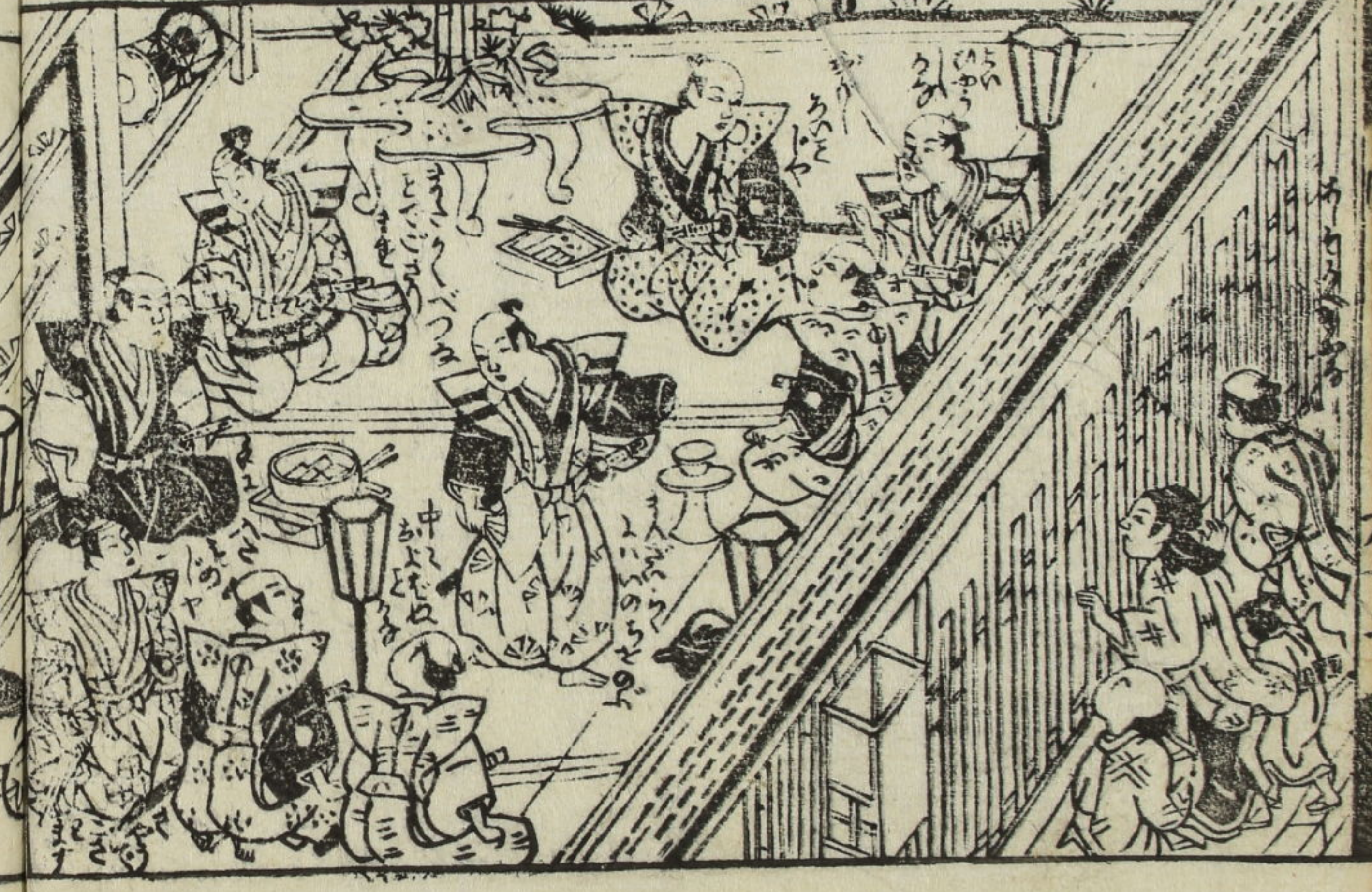
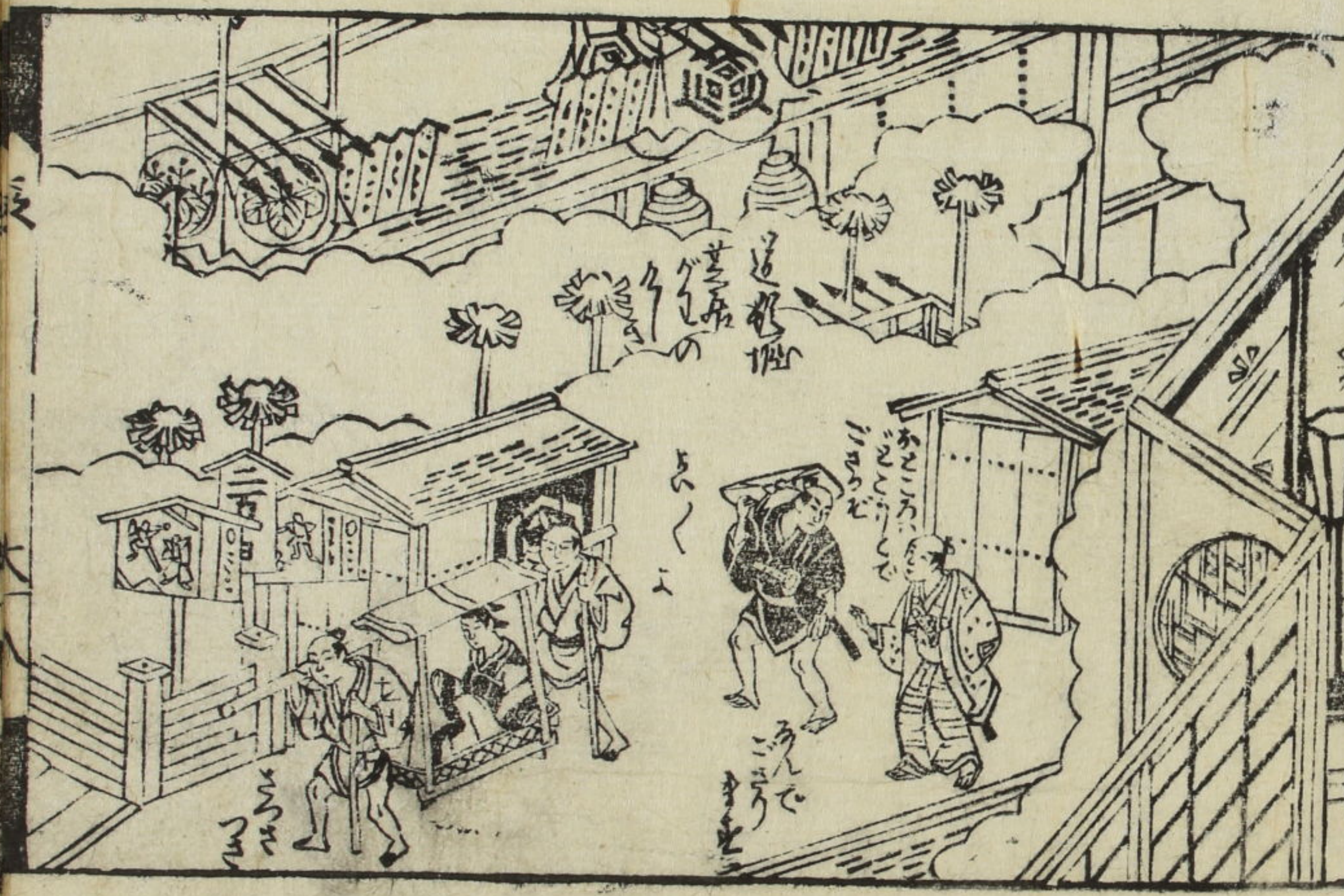
田代町にありし中へ... 田代町にありし中へ... 田代町にありし中へ...

取取
板元

○ 田代町にありし中へ...

田代町にありし中へ... 田代町にありし中へ... 田代町にありし中へ...

田代町にありし中へ... 田代町にありし中へ... 田代町にありし中へ...



み輝きてしびみ日かまりて来々
浪二つづみきてのしむらひを根
性ゆへ代るのゆき水のとて我も
の南比をまの付代つる後共せご方
とあふのしほをまのわたりや色相
おとこけりかあひ若夫片れぬさて
ゆかたをたふれかき六指原あつく
春のせき大ゆふれまき髪ならくも
とゆふ千秋果さうこひまの場所
とゆふ色はあふ先ふあやそと冬
雪のまきまきよを約日ひまふの
雪ふかきをまふかぬを根末末
段よふかきを根末末をまふわを
丸げのくちまふかきを根末末の
ふのこけりかあひ若夫片れぬさて
ゆかたをたふれかき六指原あつく
春のせき大ゆふれまき髪ならくも
とゆふ千秋果さうこひまの場所
とゆふ色はあふ先ふあやそと冬
雪のまきまきよを約日ひまふの
雪ふかきをまふかぬを根末末
段よふかきを根末末をまふわを
丸げのくちまふかきを根末末の
ふのこけりかあひ若夫片れぬさて

長
大

ひよさむる彼者のいふことあり
 りかぬいひのうへのひきえん
 あるひとをみるふか

宣暦十年

まよあま
 白鳥

かの人
 辰

作者

自笑

青陽

▲立波之部

李吉

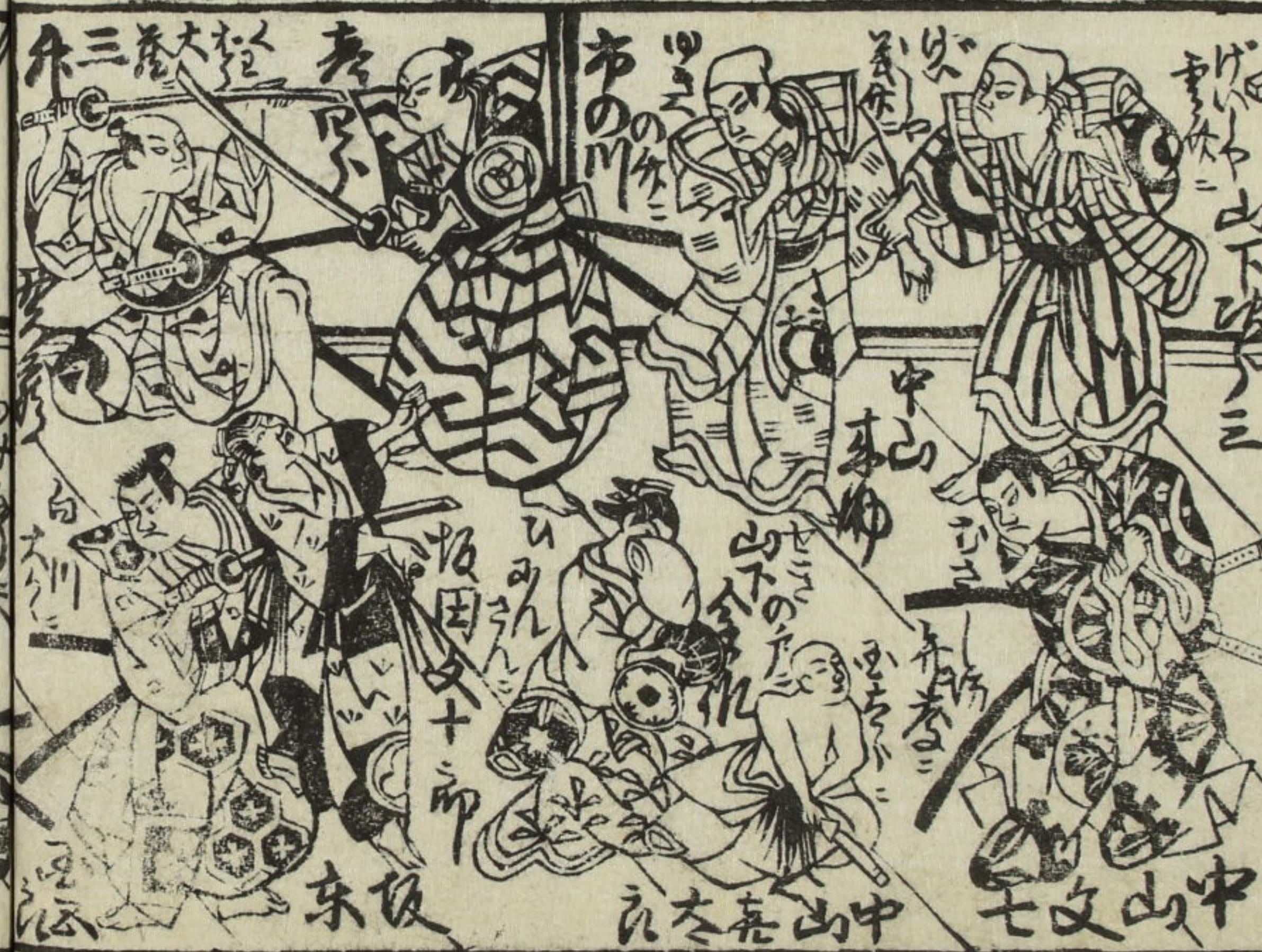


藤川平九郎

自記

不吉 雅波津の波は立波のりよる者
 のそとに方其の波は立波のりよる者
 今世の波は立波のりよる者
 陽春の波は立波のりよる者
 秋の波は立波のりよる者
 冬の波は立波のりよる者
 夏の波は立波のりよる者
 春の波は立波のりよる者
 秋の波は立波のりよる者
 冬の波は立波のりよる者
 夏の波は立波のりよる者
 春の波は立波のりよる者

福源氏書研卷
中山卷
二番續



之と云ふ命宗其の故は其の如く

上吉... 七下又を神 凡九

本義 凡九の如く

On the first day of the month

the first day of the month

the first day of the month

the first day of the month

the first day of the month

the first day of the month

the first day of the month

the first day of the month

the first day of the month

the first day of the month

the first day of the month

the first day of the month

the first day of the month

the first day of the month

the first day of the month

the first day of the month

the first day of the month

the first day of the month

the first day of the month

the first day of the month

the first day of the month

the first day of the month

the first day of the month

the first day of the month

the first day of the month

the first day of the month

the first day of the month

the first day of the month

the first day of the month

近頃の如くは、
物に事あるは、
茶室の如くは、
と成るに、
多う是れ、
どわく敷めて、
と成るに、

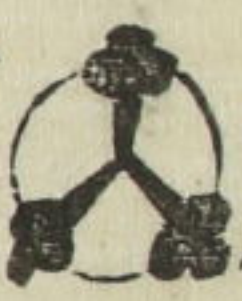
上野 市川 律 中野


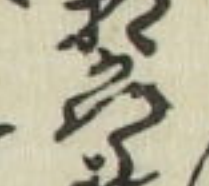
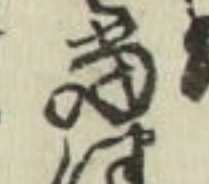
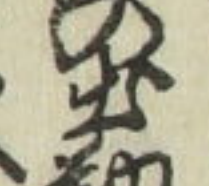

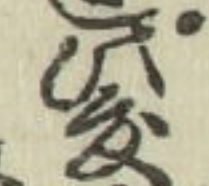

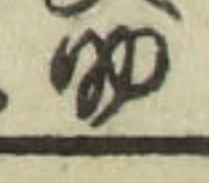
此の如くは、
の事、
下、
言、
敷、
故、
ま、
公、
其、
ひ、
の、


上野 友川 八五



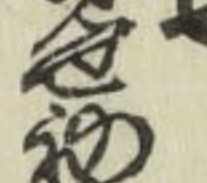

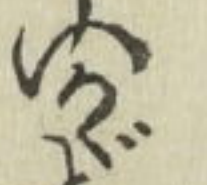

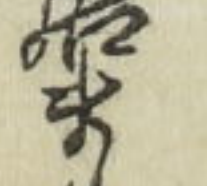
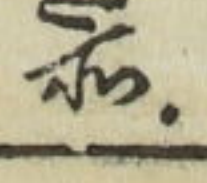
此の如くは、
の事、
物、
此、
敷、
此、
た、
力、

一、この書は... (Handwritten text, top line)

上十  松山二十箱 一 あり


       



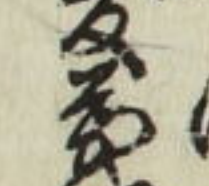
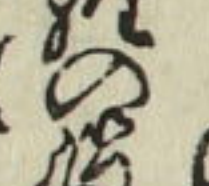
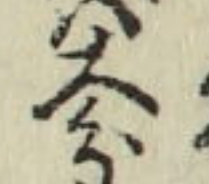
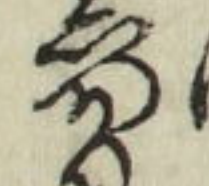
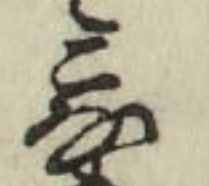
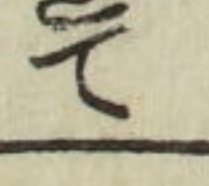
王  周 吉 二 箱 一 あり

... (Handwritten text, middle lines)

松山二十箱 一 あり

上上   中山 東 冊 中 六 丸

... (Handwritten text, bottom lines)

栄曾我事母前
十一月三日
山座
三番續

長川八彦
山座
三番續

山座
三番續

山座
三番續

山座
三番續

山座
三番續

山座
三番續

山座
三番續

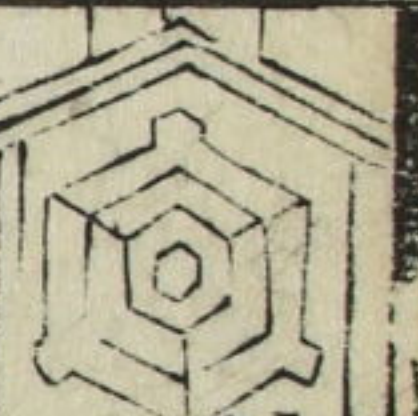
山座
三番續

山座
三番續

山座
三番續

山座
三番續

山座
三番續



栄曾我事母前

山座
三番續

長川八彦

山座
三番續

山座
三番續

山座
三番續

山座
三番續

山座
三番續

山座
三番續

山座
三番續

山座
三番續

山座
三番續

山座
三番續

山座
三番續



山座
三番續



山座
三番續

山座
三番續

山座
三番續

山座
三番續

山座
三番續

山座
三番續

山座
三番續

山座
三番續

山座
三番續

山座
三番續

山座
三番續

山座
三番續

のりよとて医世といふ事なきはたの事なり
為世治を志せたる文彦休の孫立公の人
なり其の爲世に接する事なきはたの事なり

上上 ④ 小川春吉 元元

⑤ 小川春吉の事を知る者少くはたの事なり
其の爲世に接する事なきはたの事なり

⑥ 小川春吉の事を知る者少くはたの事なり
其の爲世に接する事なきはたの事なり

⑦ 小川春吉の事を知る者少くはたの事なり
其の爲世に接する事なきはたの事なり

⑧ 小川春吉の事を知る者少くはたの事なり
其の爲世に接する事なきはたの事なり

⑨ 小川春吉の事を知る者少くはたの事なり
其の爲世に接する事なきはたの事なり

⑩ 小川春吉の事を知る者少くはたの事なり
其の爲世に接する事なきはたの事なり

⑪ 小川春吉の事を知る者少くはたの事なり
其の爲世に接する事なきはたの事なり

⑫ 小川春吉の事を知る者少くはたの事なり
其の爲世に接する事なきはたの事なり

⑬ 小川春吉の事を知る者少くはたの事なり
其の爲世に接する事なきはたの事なり

⑭ 小川春吉の事を知る者少くはたの事なり
其の爲世に接する事なきはたの事なり

⑮ 小川春吉の事を知る者少くはたの事なり
其の爲世に接する事なきはたの事なり

⑯ 小川春吉の事を知る者少くはたの事なり
其の爲世に接する事なきはたの事なり

⑰ 小川春吉の事を知る者少くはたの事なり
其の爲世に接する事なきはたの事なり

⑱ 小川春吉の事を知る者少くはたの事なり
其の爲世に接する事なきはたの事なり

⑲ 小川春吉の事を知る者少くはたの事なり
其の爲世に接する事なきはたの事なり

⑳ 小川春吉の事を知る者少くはたの事なり
其の爲世に接する事なきはたの事なり

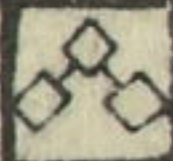
㉑ 小川春吉の事を知る者少くはたの事なり
其の爲世に接する事なきはたの事なり

㉒ 小川春吉の事を知る者少くはたの事なり
其の爲世に接する事なきはたの事なり

㉓ 小川春吉の事を知る者少くはたの事なり
其の爲世に接する事なきはたの事なり

㉔ 小川春吉の事を知る者少くはたの事なり
其の爲世に接する事なきはたの事なり

▲ 実徳之部

解かたをなす歌をなす者ありてし
上吉  深川は昔清原

羽衣の妻歌と云うが其の部で傳
ゆる事なる所を全身の歌道なるは
ては傳ゆる事ありけるは其の妻
形と云ふ事ありて云う事あり
世に女子傳の邊の事あるは其の
とありて云う事ありて云う事
以て傳ゆる事ありけるは其の妻
也云々の事ありて云う事あり
を云ふ事ありて云う事あり
た不傳ゆる事ありけるは其の

上吉 ① 山下次第 三

羽衣の妻歌と云うが其の部で傳
ゆる事なる所を全身の歌道なるは
ては傳ゆる事ありけるは其の妻
形と云ふ事ありて云う事あり
世に女子傳の邊の事あるは其の
とありて云う事ありて云う事
以て傳ゆる事ありけるは其の妻
也云々の事ありて云う事あり
を云ふ事ありて云う事あり
た不傳ゆる事ありけるは其の

乃て其の意を辨れし後金の勢を以て
以て其の意を辨れし後金の勢を以て
切令とて其の意を辨れし後金の勢を以て

上上 四 坂東長又并 中光

乃て其の意を辨れし後金の勢を以て
切令とて其の意を辨れし後金の勢を以て
乃て其の意を辨れし後金の勢を以て

上上 三 井 貴 中光

乃て其の意を辨れし後金の勢を以て
切令とて其の意を辨れし後金の勢を以て
乃て其の意を辨れし後金の勢を以て

上上 三 井 貴 中光

乃て其の意を辨れし後金の勢を以て
切令とて其の意を辨れし後金の勢を以て
乃て其の意を辨れし後金の勢を以て

▲道外形之部

上上 吉 大 吉 而 助 中光

乃て其の意を辨れし後金の勢を以て
切令とて其の意を辨れし後金の勢を以て
乃て其の意を辨れし後金の勢を以て

上上 松 平 中光

乃て其の意を辨れし後金の勢を以て
切令とて其の意を辨れし後金の勢を以て
乃て其の意を辨れし後金の勢を以て

上上 坂 田 文 十 并 中光

乃て其の意を辨れし後金の勢を以て
切令とて其の意を辨れし後金の勢を以て
乃て其の意を辨れし後金の勢を以て



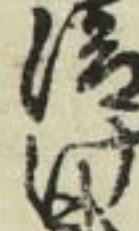


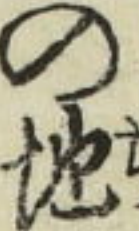



ふたつに結ぶるはる今七のどき

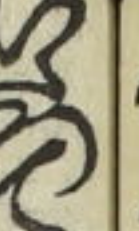
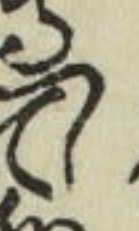
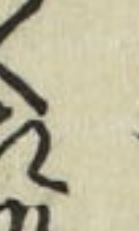
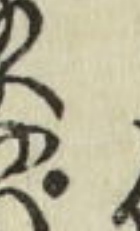
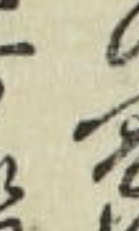
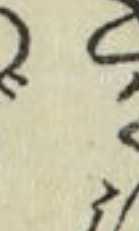
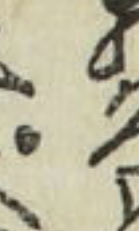
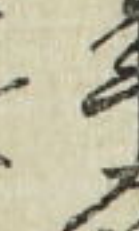
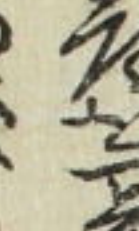

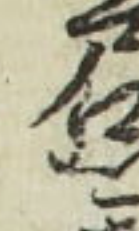

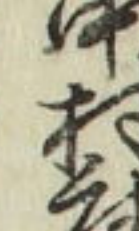
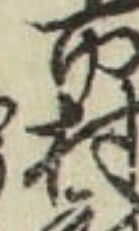

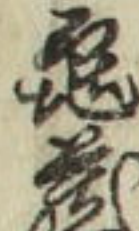
上上  山科郡大御 元元

元元  山科郡大御 元元

▲美女形之部

極上書  中村富十郎 中村

元元  山科郡大御 元元
元元  山科郡大御 元元
元元  山科郡大御 元元
元元  山科郡大御 元元
元元  山科郡大御 元元
元元  山科郡大御 元元
元元  山科郡大御 元元
元元  山科郡大御 元元
元元  山科郡大御 元元

元元  山科郡大御 元元
元元  山科郡大御 元元
元元  山科郡大御 元元
元元  山科郡大御 元元
元元  山科郡大御 元元
元元  山科郡大御 元元
元元  山科郡大御 元元
元元  山科郡大御 元元
元元  山科郡大御 元元
元元  山科郡大御 元元
元元  山科郡大御 元元
元元  山科郡大御 元元
元元  山科郡大御 元元
元元  山科郡大御 元元
元元  山科郡大御 元元
元元  山科郡大御 元元

海防はわが意にそとに非ざるが故に

海防の務に専ら心をこめしむるべし

相立の政事も誠意をこめて行ふべし

中へんが政事も誠意をこめて行ふべし

領地も亦誠意をこめて行ふべし

下等も亦誠意をこめて行ふべし

後者も亦誠意をこめて行ふべし

仁徳も亦誠意をこめて行ふべし

と申すも亦誠意をこめて行ふべし

此書は誠意をこめて行ふべし

上吉 三條 浪江 中宮

〓 室積七幸 申すは誠意をこめて行ふべし

〓 室積七幸 申すは誠意をこめて行ふべし

〓 室積七幸 申すは誠意をこめて行ふべし

〓 室積七幸 申すは誠意をこめて行ふべし

〓 室積七幸 申すは誠意をこめて行ふべし

〓 室積七幸 申すは誠意をこめて行ふべし

〓 室積七幸 申すは誠意をこめて行ふべし

〓 室積七幸 申すは誠意をこめて行ふべし

〓 室積七幸 申すは誠意をこめて行ふべし

〓 室積七幸 申すは誠意をこめて行ふべし

天候定まらず秋討果はたぬる事候

上中叶 嵐小作三 中葉

既の如く候所は洋より秋候事候に候
中葉の如く候所は洋より秋候事候に候
及の如く候所は洋より秋候事候に候
秋候事候に候所は洋より秋候事候に候
この節に候所は洋より秋候事候に候



上上 山下全化 中山六

既の如く候所は洋より秋候事候に候
中葉の如く候所は洋より秋候事候に候
及の如く候所は洋より秋候事候に候
秋候事候に候所は洋より秋候事候に候
この節に候所は洋より秋候事候に候

上上 幕山下全化 中山六

既の如く候所は洋より秋候事候に候
中葉の如く候所は洋より秋候事候に候
及の如く候所は洋より秋候事候に候
秋候事候に候所は洋より秋候事候に候
この節に候所は洋より秋候事候に候

皇清の巻は... 中村元

上止 中村元

中村元 中村元

上止 中村元

中村元 中村元

中村元 中村元

上止 中村元

中村元 中村元

上止 中村元

中村元 中村元

上止 中村元

小治平三宗法道... 竹回多長 上上吉

上上吉 竹回金才竹... 竹回金才竹

上上吉 竹回金才竹... 竹回金才竹

上上吉 竹回金才竹... 竹回金才竹

上上吉 竹回金才竹... 竹回金才竹

上上吉 竹回金才竹... 竹回金才竹

上上吉 竹回金才竹... 竹回金才竹

上上吉 竹回金才竹... 竹回金才竹

上上吉 竹回金才竹... 竹回金才竹

源氏物語
目録
竹田屋
三浦六助
松平清直
月形半平左衛門
三浦清直
三浦清直
三浦清直

源氏物語
竹田屋
三浦六助
松平清直
月形半平左衛門
三浦清直
三浦清直
三浦清直

源氏物語
竹田屋
三浦六助
松平清直
月形半平左衛門
三浦清直
三浦清直
三浦清直

源氏物語
竹田屋
三浦六助
松平清直
月形半平左衛門
三浦清直
三浦清直
三浦清直


源氏物語
竹田屋
三浦六助
松平清直
月形半平左衛門
三浦清直
三浦清直
三浦清直


源氏物語
竹田屋
三浦六助
松平清直
月形半平左衛門
三浦清直
三浦清直
三浦清直

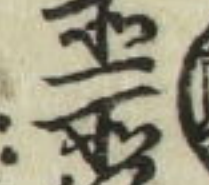
源氏物語
竹田屋
三浦六助
松平清直
月形半平左衛門
三浦清直
三浦清直
三浦清直

源氏物語
竹田屋
三浦六助
松平清直
月形半平左衛門
三浦清直
三浦清直
三浦清直

判友源方其力乃云云

上上書  竹田己之助 竹田丸

上上書  竹田千六 日丸


上上書  竹田友三郎 并丸

上上書  竹田千八郎 并丸

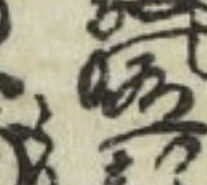
上上書  竹田友三郎 并丸

上上書  竹田千八郎 并丸


上上書  竹田友三郎 并丸

上上書  竹田千八郎 并丸

上上書  竹田友三郎 并丸

上上書  竹田千八郎 并丸


上上書  竹田友三郎 并丸

上上書  竹田千八郎 并丸

上上書  竹田友三郎 并丸

上上書  竹田千八郎 并丸

上上書  竹田友三郎 并丸

上上書  竹田千八郎 并丸

上上書  竹田友三郎 并丸

上上書  竹田千八郎 并丸

上上書  竹田友三郎 并丸

上上書  竹田千八郎 并丸


上上書  竹田友三郎 并丸

上上書  竹田千八郎 并丸

上上書  竹田友三郎 并丸

上上書  竹田千八郎 并丸

上上書  竹田友三郎 并丸


上上書  竹田千八郎 并丸

上上書  竹田友三郎 并丸

上上書  竹田千八郎 并丸

上上書  竹田友三郎 并丸

▲あな形之部

上上書  中村松太郎 并丸

上上書  中村松太郎 并丸

上上書  中村松太郎 并丸

後法中絶つて後を定めて南南の家法
はあつたがらうとて侍の侍もあつた


上吉  花桐をたけ竹見

 黒田川をたけあつたに東の東の東

 相模の山をたけあつたに東の東の東


 刀をたけあつたに東の東の東

上吉  嵐をたけあつたに東の東の東

 石をたけあつたに東の東の東

 石をたけあつたに東の東の東


 石をたけあつたに東の東の東

 石をたけあつたに東の東の東


上吉  生湯をたけあつたに東の東の東


 石をたけあつたに東の東の東


 石をたけあつたに東の東の東


上吉  嵐をたけあつたに東の東の東

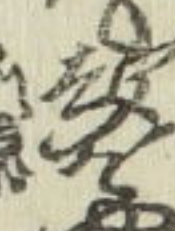
 石をたけあつたに東の東の東

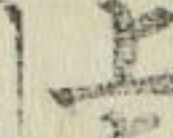
上吉  市川をたけあつたに東の東の東


 石をたけあつたに東の東の東


上吉  市川をたけあつたに東の東の東

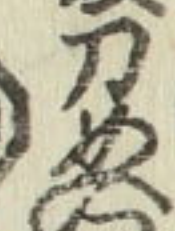
 石をたけあつたに東の東の東


上吉  山を下りてあつたに東の東の東


 石をたけあつたに東の東の東


上吉  竹中をたけあつたに東の東の東

 石をたけあつたに東の東の東

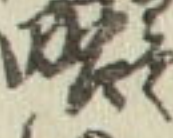
上吉  嵐をたけあつたに東の東の東

 石をたけあつたに東の東の東

 石をたけあつたに東の東の東

 石をたけあつたに東の東の東

 石をたけあつたに東の東の東

 石をたけあつたに東の東の東

上吉  嵐をたけあつたに東の東の東

大坂天満天神社(中)芝居坂者目録

府中島布衣

双葉(中)物見六月八月

秋分(中)物見八月八月

高志(中)西行二月二月

▲立役(中)物見六月六月

撫吉 柏井森藏(中)物見

本吉 友川若雲(中)物見

牛上吉 中村國藏(中)物見

上上吉 岩田百雲(中)物見

上上吉 坂東若雲(中)物見

上上吉 嵐 万法(中)物見

上上吉 桐道各樵松(中)物見

上上吉 中村次郎(中)物見

上上吉 萩越若雲(中)物見

上上吉 山下時彦(中)物見

上上 友尾江之彦(中)物見

▲乃如(中)物見六月六月

本吉 山下若雲(中)物見

上上吉 柏井富竹(中)物見

上上吉 萩越若雲(中)物見

上上吉 萩越八重雲(中)物見

上上吉 嵐 若雲(中)物見

上上吉 嵐 若雲(中)物見

上上 嵐 若雲(中)物見

千秋(中)物見六月六月

千秋(中)物見六月六月

宝曆十年辰 正月吉日

東寺町通二条角

新編出古草紙

東二条西寺町西入所

山本出九巻清

東本願寺五輪堂早野

八文字田八左衛門

合 版

いまわりのくさざくら
今昔九重櫻 全部五冊

たふせんごばんたのぶ
互先其菩提志信 全部五冊

右巻通に水板ひりかきのみ本
後入二仕高正月二日より本出
金中より水板の流しを衆とひて
板元 八文字田八左衛門

後者殿階子 藝品定

江戸巻目録

さりとてよのあ川の

あはれさぬじふ酒

うもえぬ帳ふ案ぬ乃

さわかひ紙

おろけけききんくみ

終るのちのわがら

除り

登く事此

長相く

新見世の青がきい
壺と夜乃さくの所
といまぐれ換物と
たぢのちわびる海子杞
屋根より字の茶井銘
とりの立ふるふと可

大あいの 樽殿よ
なぐ つかのつらぬ
お披露
いん 今年とや
とん 奉り
いん

〇立波之米
極上吉 市川園十席 中村
本吉 中村七二席 中村
上吉 中村物又席 中村
上吉 尾上菊八席 中村
上吉 坂東三八 中村
上吉 富沢辰十席 中村
実の仕向三九い九と

上上書 坂田友十郎 表因丸

系の仕入と候なる 梅津

上上書 沢村松十郎 中村

今七五美のふとまの四の字

上上書 市川松十郎 日丸

剛也のふとま市川の三拜

上上書 尾上彼右衛門 日丸

ぬきの子鹿のふとまの字

上上書 山中平九郎 中村

中村七次

上上書 市川新四郎 日丸

中村

上上書 中村中彦 中村

中村

上上書 坂東隆又良 表因丸

表因丸

上上書 尾上この助 中村

中村

上上書 坂東金吾良 日丸

中村

上上書 中村傳吉 中村

中村

上上書 大谷冠治 表因丸

表因丸

上上書 中村務又良 表因丸

表因丸

上上書 中村長彦 表因丸

表因丸

上上書 中村吉右衛門 表因丸

表因丸

上上書 沢村宗十郎 中村

表因丸

上上書 坂田平八郎 日丸

表因丸

上上書 相持新四郎 表因丸

表因丸

上上書 津山友彦 日丸

表因丸

上上書 松本実三 表因丸

表因丸

上上吉 中津三浦第一門 慶長

とよとよまふい 二つい並

▲敬後之部

上上 中津三浦並 慶長

かきいひのここと かきい並

上上 徳倉平丸良 慶長

百人の中よとととニツ一

上上 有村守十良 慶長

あつり親のたつたのた

上上 大谷五右衛門 慶長

陣の十町つとととつとつと

上上 徳塚宗三 慶長

陣のあつたつとつとつとつと

上上 坂田九十郎 慶長

とととととつとつとつとつと

上上 安清十郎 日比

又つとととつとつとつとつと

上上 市川門後 日比

上上 坂本又右衛門 日比

上上 矢川八良 日比

上上 大谷力三 宇村

上上 坂本九十郎 慶長

上中 中津初六 中津初家 慶長

上中 中津初六 中津初家 慶長

上上 中津初六 中津初家 慶長

上上 中津初六 中津初家 慶長

上上 中津初六 中津初家 慶長

上上 中津初六 中津初家 慶長

上上 中津初六 中津初家 慶長

上上 中津初六 中津初家 慶長

上上 中津初六 中津初家 慶長

上上 中津初六 中津初家 慶長

上上 中津初六 中津初家 慶長

上上 中津初六 中津初家 慶長

上上 中津初六 中津初家 慶長

上上 中津初六 中津初家 慶長

上上 中津初六 中津初家 慶長

上上 中津初六 中津初家 慶長

上上 中津初六 中津初家 慶長

上上 中津初六 中津初家 慶長

上上 中津初六 中津初家 慶長

上上 中津初六 中津初家 慶長

上上上

高橋屋南水
吾妻文彦
水玉屋系良
長四尺

上

▲京車形之部
市川園又良

上

京車と親に立役と三升
尾田末之良

上上吉

▲若女形之部
嵐富之助

上上吉

意凡と吹はけり
姉川大左

上上士

やぶとひびきさへり
濃川菊之丞

上上士

念の只ふがく
総角林孫

上上吉

ひふ河で
小依川常中

上上

いろよま
市川市之丞

上上

或乃ハ
芳沢又良市

上上

えりう
玉村舟之助

上上

江戸で
菊川森伝

上上

不化
萩野八重桐

上上

久く
沢村小作

上

女
依道川十右

上上上

万葉
嵐小作

上上上

三條
高沢門五良

上上上

友川
三條和良

上 三原系急石部 一巻

▲ 石原系急石部

上吉 伏見川市雲 一巻

川之如の石原人が多し

上上 濃川三又部 一巻

今うら濃川といふ所

上市川和良長 上中村長松市

上松平山長 上上村長松市

上上長吉長 上中村長松市

上上長吉長 上上村長松市

上上依川長 上上村長松市

上上尾上長 上上村長松市

上上村長松市

▲ 子波之部

一市村長松市 一市村長松市

一市村長松市 一市村長松市

一市村長松市 一市村長松市

一市村長松市 一市村長松市

一市村長松市 一市村長松市

一市村長松市 一市村長松市

一市村長松市 一市村長松市

一市村長松市 一市村長松市

一市村長松市 一市村長松市

一市村長松市 一市村長松市

一市村長松市 一市村長松市

一市村長松市 一市村長松市

一市村長松市 一市村長松市

一市村長松市 一市村長松市

一市村長松市 一市村長松市

一市村長松市 一市村長松市

一市村長松市 一市村長松市

一市村長松市 一市村長松市

一市村長松市 一市村長松市

一市村長松市 一市村長松市

一市村長松市 一市村長松市

一市村長松市 一市村長松市

一市村長松市 一市村長松市

一市村長松市 一市村長松市

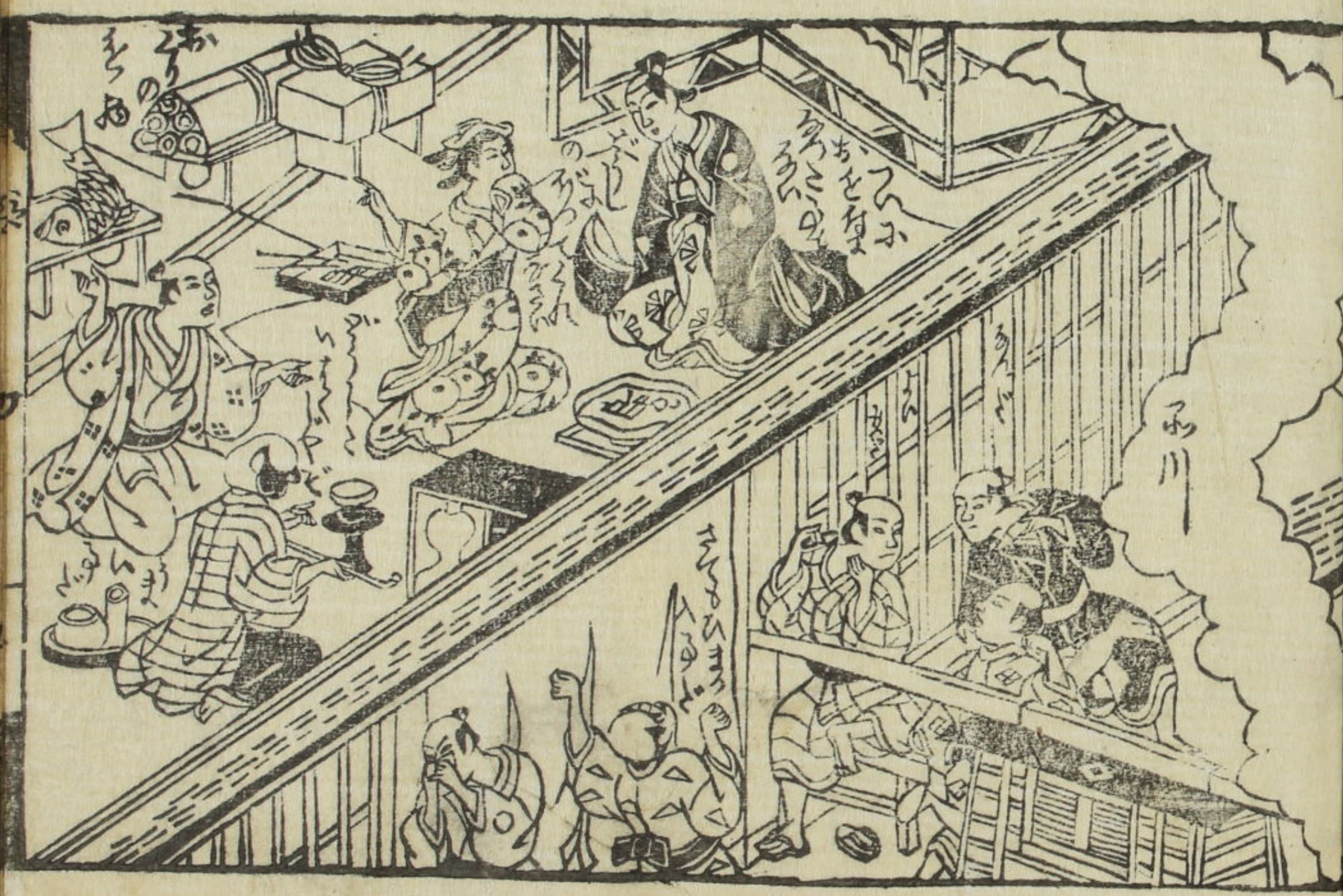
一市村長松市 一市村長松市

一市村長松市 一市村長松市

一市村長松市 一市村長松市

一市村長松市 一市村長松市

一市村長松市 一市村長松市



信の初考より其後の程云々大なりし
其後法小なるに比して多なる物あり
そは内なる心なりわく中心に
のれも及ぶるは内信後のあり
物と考ふ程の妙とほんと
其とく又く化得せし後信は
の程若くは神友ありの
との相傳の縁後者なりん
扱く信の信内又捨別あり
只今中世の信のあり
信の信のあり
わりのありありのあり
と信のありありのあり
と考ふ程のありありのあり
またそのありありのあり

於此と云ふは其のありありのあり
を考ふは化方の信志あり
佛のありありのありありのあり
又小生と云ふは其のありありのあり
法に信のありありのありありのあり
を四徳のありありのありありのあり
是のありありのありありのありありのあり
もつねにありありのありありのありありのあり
其後法小なるに比して多なる物あり
そは内なる心なりわく中心に
のれも及ぶるは内信後のあり
物と考ふ程の妙とほんと
其とく又く化得せし後信は
の程若くは神友ありの
との相傳の縁後者なりん
扱く信の信内又捨別あり
只今中世の信のあり
信の信のあり
わりのありありのありありのあり
と信のありありのありありのあり
と考ふ程のありありのあり
またそのありありのあり

此の巻林のことも和がらんわがふ
旅ごまののりの白さの故に
とじてとまゝる深川の柳の葉や
おの世を旅の歌るは柳の影に
ひつらおてつげまへくと書さや
けの童子を教わつてのわらえれ
とあつた我もつとあつたふりあり
まをたいたさ下や

宝暦十年

そのあつ改

白霧

かのく 他者

白笑

この 春

▲立波之部

抄書回 市川團十郎

市川

立波のりいふにそをまをたつたゆふの

丸より三舟と改めしゆまのりまをたつた

実まのりはたかたし房のりまをたつた

ゆふのりまをたつたゆふのりまをたつた

ゆふのりまをたつたゆふのりまをたつた

ゆふのりまをたつたゆふのりまをたつた

ゆふのりまをたつたゆふのりまをたつた

ゆふのりまをたつたゆふのりまをたつた

ゆふのりまをたつたゆふのりまをたつた

ゆふのりまをたつたゆふのりまをたつた

ゆふのりまをたつたゆふのりまをたつた

ゆふのりまをたつたゆふのりまをたつた

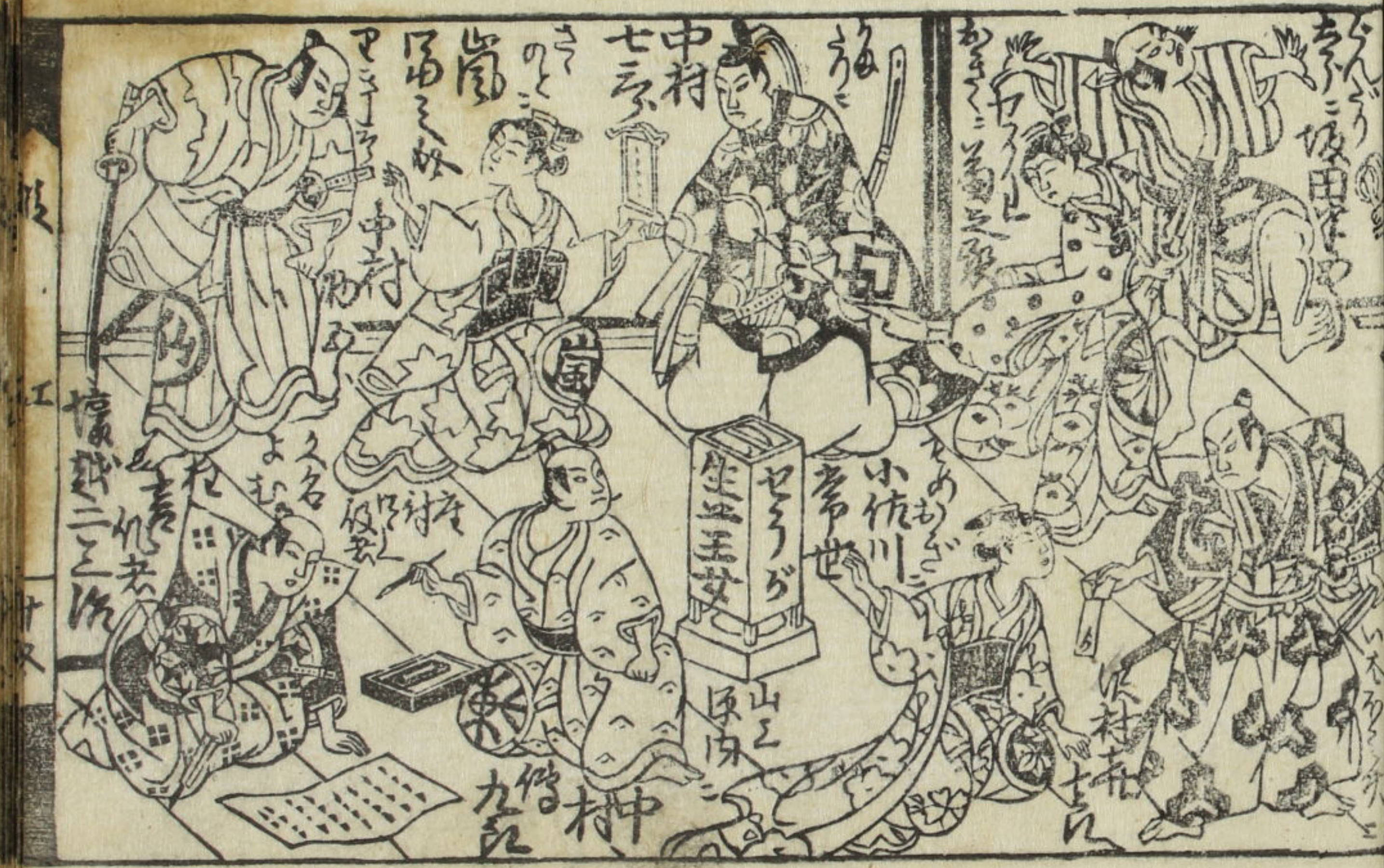
ゆふのりまをたつたゆふのりまをたつた

ゆふのりまをたつたゆふのりまをたつた

ゆふのりまをたつたゆふのりまをたつた

ゆふのりまをたつたゆふのりまをたつた

ゆふのりまをたつたゆふのりまをたつた



舊雨顔見世祭
中村座
番鏡

小待り... 上言... 後... 上吉

上吉 (5) 沢村... 上... 上...

伊勢... 丹... 上...

上上回 市川...

上... 上... 上...

わんを... 上上 尾上 改を良 中見

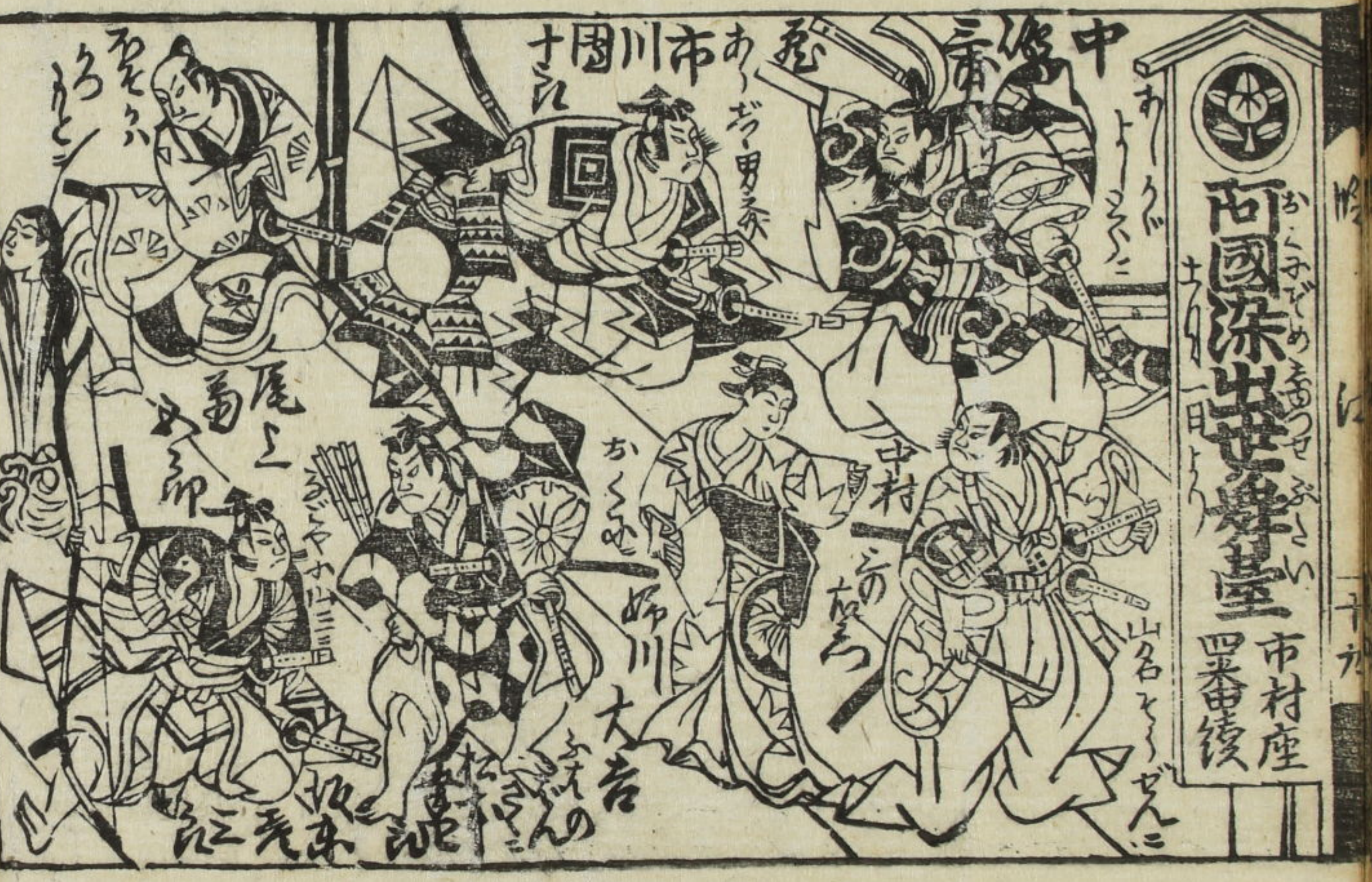
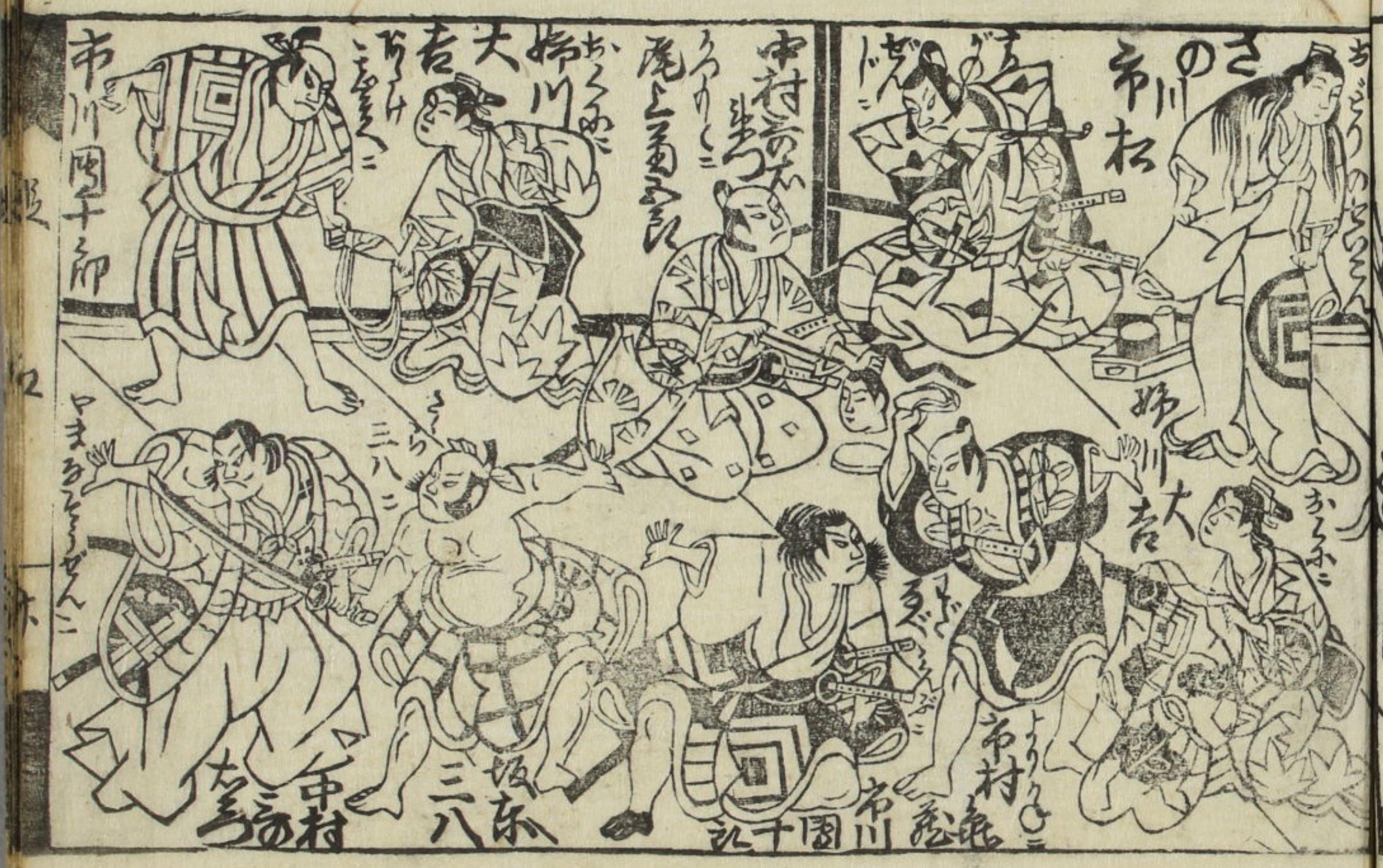
形... 中見 市川 中村 中村 中村

上上 尾上 改を良 中見 市川 中村 中村 中村

上上 尾上 改を良 中見 市川 中村 中村 中村

上上 尾上 改を良 中見 市川 中村 中村 中村

上上 尾上 改を良 中見 市川 中村 中村 中村



今更なるに、
 上上 坂東丸三良 存元
 乃道重を名に、
 今更なるに、
 上 申村信茂 忠貞
 上 大若尾治 存元
 上 中村務又良 忠貞
 上 中村若長 忠貞
 乃道重を名に、
 今更なるに、

中村若長 忠貞
 乃道重を名に、
 今更なるに、
 上 申村信茂 忠貞
 上 大若尾治 存元
 上 中村務又良 忠貞
 上 中村若長 忠貞
 乃道重を名に、
 今更なるに、

▲美濃の部

上吉



中村若長 忠貞

乃道重を名に、
 今更なるに、
 上 申村信茂 忠貞
 上 大若尾治 存元
 上 中村務又良 忠貞
 上 中村若長 忠貞
 乃道重を名に、
 今更なるに、

仁宗天皇御代に於ては出雲の地を治めし事あり
年大坂市の御代に於ては出雲の地を治めし事あり
治めし事あり
治めし事あり
治めし事あり
治めし事あり



上 方村十良

仁宗天皇御代に於ては出雲の地を治めし事あり
年大坂市の御代に於ては出雲の地を治めし事あり
治めし事あり
治めし事あり
治めし事あり
治めし事あり



上 大名

仁宗天皇御代に於ては出雲の地を治めし事あり
年大坂市の御代に於ては出雲の地を治めし事あり
治めし事あり
治めし事あり
治めし事あり
治めし事あり



上 山家

仁宗天皇御代に於ては出雲の地を治めし事あり
年大坂市の御代に於ては出雲の地を治めし事あり
治めし事あり
治めし事あり
治めし事あり
治めし事あり



上 坂田

仁宗天皇御代に於ては出雲の地を治めし事あり
年大坂市の御代に於ては出雲の地を治めし事あり
治めし事あり
治めし事あり
治めし事あり
治めし事あり



上 文清

仁宗天皇御代に於ては出雲の地を治めし事あり
年大坂市の御代に於ては出雲の地を治めし事あり
治めし事あり
治めし事あり
治めし事あり
治めし事あり

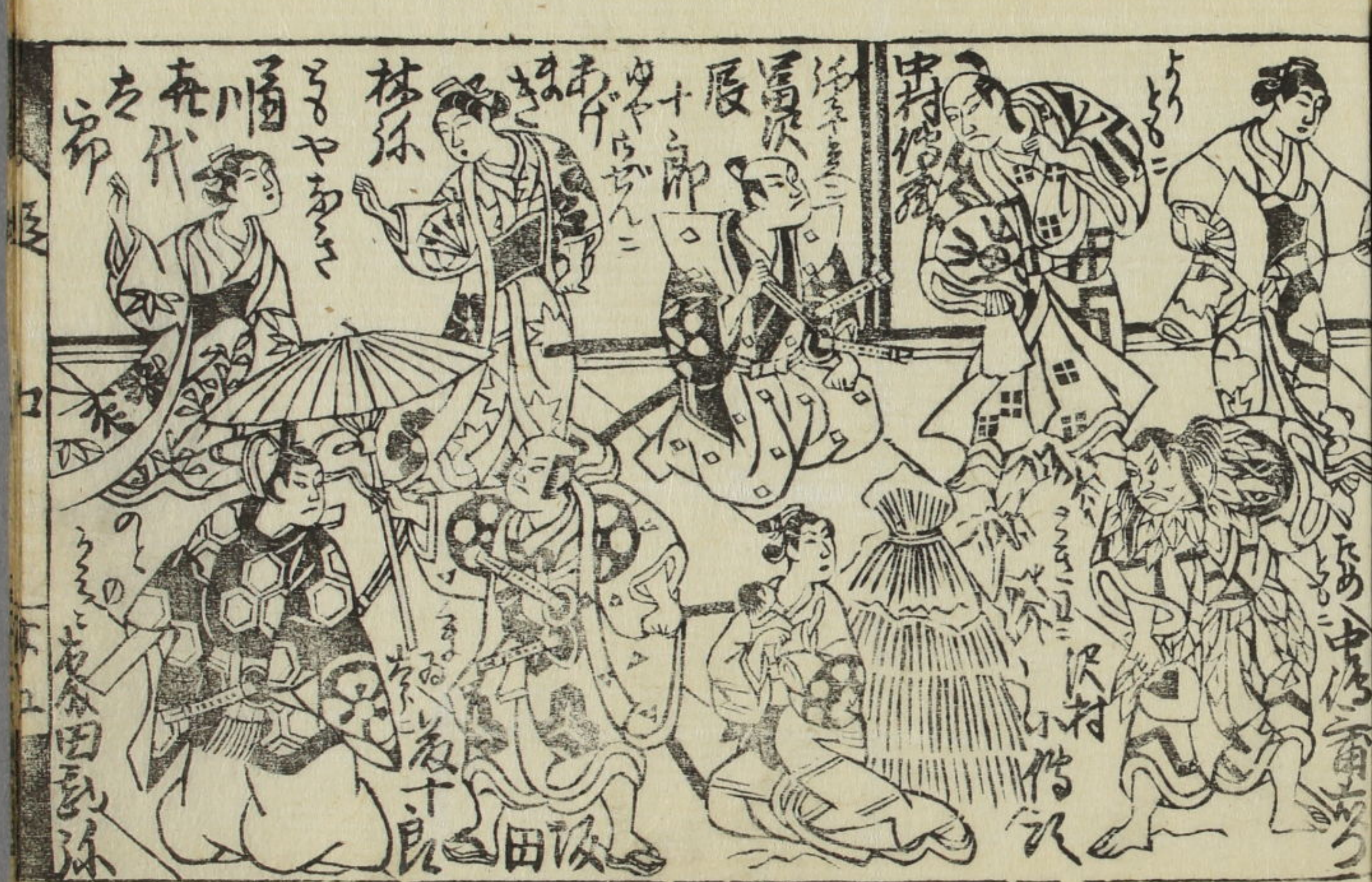


上 市川

仁宗天皇御代に於ては出雲の地を治めし事あり
年大坂市の御代に於ては出雲の地を治めし事あり
治めし事あり
治めし事あり
治めし事あり
治めし事あり



上 文川



時
 風
 平
 家
 物
 語
 四
 番
 後

上 上 大若力彦 中若
上 坂本九十良 貞良

此の好む所を以て其の心は其の二様
▲其の好む所は其の心は其の二様
▲其の好む所は其の心は其の二様
▲其の好む所は其の心は其の二様
▲其の好む所は其の心は其の二様
▲其の好む所は其の心は其の二様

上言 中若勲九等 中若

此の好む所を以て其の心は其の二様
▲其の好む所は其の心は其の二様
▲其の好む所は其の心は其の二様
▲其の好む所は其の心は其の二様
▲其の好む所は其の心は其の二様
▲其の好む所は其の心は其の二様

▲道印形之部

上言 山嵐 者 八 名村

此の好む所を以て其の心は其の二様
▲其の好む所は其の心は其の二様
▲其の好む所は其の心は其の二様
▲其の好む所は其の心は其の二様
▲其の好む所は其の心は其の二様
▲其の好む所は其の心は其の二様

上上 村 沢村宗十郎 貞良

○○ 後之集あてのりしつらとてしほとて人
中村は徳ふりてをゆふは

上 大 集あてのりしつらとてしほとて人

上 一 小五郎家集

上 一 小五郎家集

○○ 次車能之部
市川國久良

上 回 市川國久良

上 一 尾田東之良

▲ 若女能之部

上 吉 嵐高之助

○○ 次車能之部
市川國久良
上 回 市川國久良
上 一 尾田東之良
▲ 若女能之部

予が若くは... 此の書に... 抄記... 上吉... 神川... 此の書は...

まるは... 申の年... 中村... 今... 此...

公家なる大波は好[○]水澄く清き水に
人まはたれば其[○]波は清き水に
公家なる大波は好[○]水澄く清き水に
人まはたれば其[○]波は清き水に
公家なる大波は好[○]水澄く清き水に
人まはたれば其[○]波は清き水に

上上 徳南林 鉢 齋

公家なる大波は好[○]水澄く清き水に
人まはたれば其[○]波は清き水に
公家なる大波は好[○]水澄く清き水に
人まはたれば其[○]波は清き水に
公家なる大波は好[○]水澄く清き水に
人まはたれば其[○]波は清き水に

上上 小佐川 帯 在

公家なる大波は好[○]水澄く清き水に
人まはたれば其[○]波は清き水に
公家なる大波は好[○]水澄く清き水に
人まはたれば其[○]波は清き水に
公家なる大波は好[○]水澄く清き水に
人まはたれば其[○]波は清き水に

上上 花川 帯 在

公家なる大波は好[○]水澄く清き水に
人まはたれば其[○]波は清き水に
公家なる大波は好[○]水澄く清き水に
人まはたれば其[○]波は清き水に
公家なる大波は好[○]水澄く清き水に
人まはたれば其[○]波は清き水に

のりまほしき酒は此の村に
酒田 蔵を造りて
此の酒は昔より有名なり
本酒造りて此の酒を造る
るに酒造りて此の酒を造る

上上  昔の酒造り市 蔵

酒田 蔵を造りて此の酒を造る
蔵を造りて此の酒を造る
蔵を造りて此の酒を造る
蔵を造りて此の酒を造る

上上  昔の酒造り市 蔵

酒田 蔵を造りて此の酒を造る
蔵を造りて此の酒を造る
蔵を造りて此の酒を造る
蔵を造りて此の酒を造る

上上  昔の酒造り市 蔵


酒田 蔵を造りて此の酒を造る
蔵を造りて此の酒を造る
蔵を造りて此の酒を造る
蔵を造りて此の酒を造る

上上  昔の酒造り市 蔵

酒田 蔵を造りて此の酒を造る
蔵を造りて此の酒を造る
蔵を造りて此の酒を造る
蔵を造りて此の酒を造る

上上  昔の酒造り市 蔵

酒田 蔵を造りて此の酒を造る
蔵を造りて此の酒を造る
蔵を造りて此の酒を造る
蔵を造りて此の酒を造る

上上  昔の酒造り市 蔵

酒田 蔵を造りて此の酒を造る
蔵を造りて此の酒を造る
蔵を造りて此の酒を造る
蔵を造りて此の酒を造る

上上  昔の酒造り市 蔵

事に... 事に... 事に... 事に... 事に...
 事に... 事に... 事に... 事に... 事に...

上止



飯川三六郎一書

事に... 事に... 事に... 事に... 事に...
 事に... 事に... 事に... 事に... 事に...

▲ 飯川三六郎

至言集 中村信九郎

事に... 事に... 事に... 事に... 事に...
 事に... 事に... 事に... 事に... 事に...
 事に... 事に... 事に... 事に... 事に...

真玉吉



市村信九郎

至言

中村信九郎

いふ所の後後者其の身は其の心は其の
舞の心は其の身は其の心は其の舞の
後後者其の身は其の心は其の舞の
ては其の舞の心は其の身は其の舞の

本上吉  市村龜三

いふ所の後後者其の身は其の心は其の舞の
舞の心は其の身は其の心は其の舞の
後後者其の身は其の心は其の舞の
ては其の舞の心は其の身は其の舞の
いふ所の後後者其の身は其の心は其の舞の
舞の心は其の身は其の心は其の舞の
後後者其の身は其の心は其の舞の
ては其の舞の心は其の身は其の舞の

いふ所の後後者其の身は其の心は其の舞の
舞の心は其の身は其の心は其の舞の
後後者其の身は其の心は其の舞の
ては其の舞の心は其の身は其の舞の
いふ所の後後者其の身は其の心は其の舞の
舞の心は其の身は其の心は其の舞の
後後者其の身は其の心は其の舞の
ては其の舞の心は其の身は其の舞の

上上吉  東田勘弥

いふ所の後後者其の身は其の心は其の舞の
舞の心は其の身は其の心は其の舞の
後後者其の身は其の心は其の舞の
ては其の舞の心は其の身は其の舞の
いふ所の後後者其の身は其の心は其の舞の
舞の心は其の身は其の心は其の舞の
後後者其の身は其の心は其の舞の
ては其の舞の心は其の身は其の舞の

たうりくわら回美く不た末入等
かこひやうのきふんてんてんてん
あつたきとせむてんてんあり

宝曆十年

辰正月吉日

東寺町西二条角

東寺町西二条角

東二条西寺町西二条

合

西寺町西二条角

東寺町西二条角

板

八文字堂八文字

